

ペンギン・ハイウェイ

世界の果ては？ 謎探る少年の冒険と思索

高知新聞 18.8.24

目の前に流れている川をさかのぼったら、どこへ着くのか。この森の向こうには何が広がっているのか。世界の果てはあるのか。あるとしたら、いったいどうなっているのか。子どものころ、世の中は不思議に満ちていた。その謎を探ろうとして、あてどなく野や山をさまよった。

主人公の小学校4年生、アオヤマ君はとても理知的で、小さい時に野山をぼんやり歩き回った当方とは違う。疑問や起こった事象を克明にノートに記録し、分析し、考察する。アオヤマ君の視点を追っていると、世界が謎だらけで魅力的だった子どものころを思い出す。

アオヤマ君の住む街に、ある日突然たくさんのペンギンが現れる。近くに海もないのになぜ？ また、森の奥の草原に浮遊する不思議な球体を発見し同級生と一緒に探究を始めた。さらにチェス仲間で豊かな胸のお姉さんは魅力的で謎めいている。「なぜ彼女のおっばいは母のおっばいとは違うのだろうか。物体としては同じであるのに、僕という人間に与える印象がなぜこんなにも違うのだろうか」。昔から少年が持つ根源的な問いに挑むアオヤマ君が愛らしい。こうして彼の研究対象は広がっていく。

大事な点が一覧できるよう紙にまとめて何度も眺めよ。そして考えがまとまらなかったら、よく眠れ。全てがつながる瞬間がきっと訪れる。アオヤマ君に謎を解くヒントを与える父さんはよき理解者であり、指導者だ。

学びの本質はテストの点数を取ることでも、お金もうけのためでもなく未知の事柄を知る楽しみではないか。向こうに何があるのだろうかという好奇心から、人類の祖先は木の上から降りた。そしてここまでたどり着いた。ヒトをヒトたらしめているのが、冒険と思索ではないだろうか。

ちょっぴり胸が痛んで、希望を持たせるラストシーン。信念を持ち真理に到達しようとする全てのアオヤマ君にエールを送りたい。

TOHO シネマズ高知で上映中。 (鍋島和彦)



謎めいたお姉さんもアオヤマ君の研究対象だ ((C)2018 森見登美彦・KADOKAWA/「ペンギン・ハイウェイ」製作委員会)